

昇マラボ

Vol.01

2022.05.01

【2022年度初回号】

新年度がスタートしました！

今回の大見出しは、新年度がスタートしたということで、各学年を経験してきた先輩から後輩に向けて今頑張っておいた方が良いことを書いて頂きました！

M2 → M1

皆さんの個性を活かして何に取り組むのか考え、向き合うことが大切だと思います。せっかく大学院に進学するのだから、院進してよかったと思えるものを作り出して欲しいです。自分の場合、院進を決めたのはコロナの影響が大きく、研究の為に！というわけではなかったです。むしろ研究活動に対してはコンプレックスがありました。そのため、研究室運営に対しては全力で取り組む事で成長し、所属する研究室や先生方に貢献したいと考えました。上手くいかないこともあります。自分で考えて行動したことは成長したのだと感じています。皆さんも、自分が成長できたと思える大学院生活を過ごしてください(・ω・)グッ！

執筆: 古賀 光稀



【研究室の様子】

M1 → B4

B4の皆さんが研究室に配属されて半年が過ぎ、研究テーマの方向性がだいぶ固まってきた時期だと思います。研究を進める上で分からないことが出てきたり、疑問が出たらどんどん先輩方を頼ってみましょう。この研究室は優しい先輩ばかりなので、聞いてみたら解決するまで手伝ってくれるはずですよ(笑)。あと、毎回のゼミのスライドを意識してより良いものにしてください。ゼミのスライドに時間をかけて作ってあげれば、中間発表や卒論発表のスライドにも再利用できて、後々楽することができます。就職・進学どちらにしてもパワポを使ったプレゼンは必要なスキルになると思うので、まずは先輩のスライドをまねて自分のものにしてあげてください。

執筆: 吉田 京平



【全体ゼミの様子】



Cyber Physical System
Laboratory

レクリエーション

3月にCPSL杯争奪第1回PUBG mobile選手権と研究室にいたメンバーでAmong Usを行いました。特にCPSL杯で協力いただいた奥村先生、参加していただいた皆さん本当にありがとうございました！レクはコミュニケーションのきっかけになると考えており、現在は物理的な距離を取ることが必須ですが、レクを通して心の距離は縮まることができると思っていますので、今回参加できなかった方も次回は参加してくれると嬉しいです！

執筆:山田 将司(レク係)

OBの方や先生方も参加していただき、短い時間でしたが、交流できとても有意義な時間を過ごせたと思います。PUBG初心者だったので、武器やマップがわからず、強い場所を探すのが難しかったですが、上位にランクインできて良かったです。今後もレクだけでなく、研究などでも上位にランクインできるように頑張ります！企画・運営に尽力してくださった、奥村先生、宮田さん、レク係さん、ありがとうございました。

執筆:明石 華実



【 CPSL杯 表彰式の様子】



【Among Usの様子】

豆知識掲示板

研究室の皆さんの、読むと少し役に立つような豆知識を紹介します！

ちょっとした豆知識紹介コーナーの土台作りということでリクエストのあったボディメイク(身体づくり)に役立つ豆知識を紹介します。それは、朝食前に散歩をしましょう！というものです。空腹時に有酸素運動をすると脂肪燃焼効果が高く、1日の始まりに日光も浴びられるので晴れやかな気持ちでスタートすることができます。生活スタイルが朝型の人や身体を絞りたい人、気持ちが曇り模様の人にはおススメですので是非お試しあれ！目安は15~20分くらい、ちょっと早歩きで散歩するだけでOK!なにはともあれ、ボディメイクは”継続”が大事なので”無理せず少しずつ”が大切です。また紹介する機会があれば歩き方も紹介していけたらと思います！

あさんぽのススメ 江口大雅

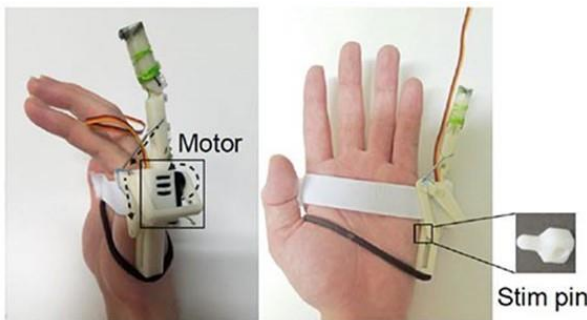


引用：<https://folk-media.com/2873688>

参考文献：Ahlborg Gunvor, and Philip Felig. "Influence of Glucose Ingestion on Fuel-Hormone Response during Prolonged Exercise." JOURNAL OF APPLIED PHYSIOLOGY, vol. 41, no. 5, Nov. 1976, pp. 683-688, doi:<https://doi.org/10.1152/jappl.1976.41.5.683>.

Toyonaka JIRO, et al. "SUBSTRATE USAGE DURING PROLONGED EXERCISE ON MORNING AND EVENING." Japanese Journal of Physical Fitness and Sports Medicine, vol. 44, no. 4, 1995, pp. 419-430, doi:<https://doi.org/10.7600/jspfsm1949.44.419>. J-STAGE.

6th Finger Project 山口大貴



参考文献：Kohei Umezawa, Yuta Suzuki, Gowrishankar Ganesh, Yoichi Miyawaki, "Bodily ownership of an independent supernumerary limb: an exploratory study," Scientific Reports 12, 2339 (2022).

今回から、読者の知識幅を広げることを目的に、小話を紹介するコーナーが新設されたそうです。なんの思し召しかわかりませんが、初回は私が執筆することとなりました。ご期待に添えるかわかりませんが、皆さんの話題の一つになればいいと思います。さて、皆さんは「6th Finger Project」というものをご存じでしょうか？これは、人体に基から備わっていることのない第6本目の指を機械的に付け足した際、その新しい指を脳は受け入れることができるのかといった問題を検討した研究となっています。私はこの研究を見て、人間の運動野の柔軟性に驚かされました。少し杵からそれた話かもしれませんが、「知能」という点では共通点があるかもしれません。気になったら調べてみては…？

大学院に進学した皆さんへ

新学期に毎年お話ししているのですが、大学院生の皆さんには、単なる学生の延長にならないように、「就職」ではなく「進学」を選んだ意味を日々よく考えてほしいと思っています。

研究室の活動は、皆さんの取り組み次第で、どこまでも青天井に充実させることができます。我々教員は、そのためのサポートなら何でも喜んでします。進学した以上、皆さんの本分は間違いなく勉強ですので、是非研究室に出てきて、研究室の活動を中心に据えて下さい。指示待ちの姿勢にならないよう、自らが主体的に考え、行動し、価値を生み出すことを心がけましょう。研究を進める上での「なぜ？どうして？」を様々な角度から常に探究し続けて下さい。



主体的になるとは、分かりやすく言えば、学会や就活の面接などで完璧な質疑応答ができるように、物事を自分事として考え抜くことです。このような研鑽を積むことは、皆さんの計画力、行動力、表現力、コミュニケーション力、問題解決力などを高め、技術や社会に対する視野を広げてくれます。就活や社会に出たあとにも必ず役に立ちます。これは、大学に研究室が置かれる理由の一つなのでしょう。研究を進める上で最も重要なのは、「好奇心」や「やる気」で、知識・能力などの個人的な資質は、あまり関係ないようです。教員も含め、皆で切磋琢磨(考える、悩む、行動する)しましょう。現在、ゼミの進め方を工夫しようとしているのも、良い研究をするための試行錯誤の一つです。

最後に、大学院生の皆さんは、是非上級生らしく振る舞って下さい。学部生は皆さんの背中を見ています。研究室は会社と同じように小さな組織です。組織的に取り組まなければ良い環境は作れないので、どうか力を貸して下さい。一方で、年々良くなっている環境を築いてくれた諸先輩方にも、敬意と感謝を忘れないで下さい。これからの2年間は皆さんにとって最高になることを願っています。一緒におもしろい研究をしましょう！

執筆: 福田 修

編集後記

こんにちは、広報係の河原です。2022年度の初月号ということで、スマートフォンでも読みやすいように縦型のレイアウトにしてみました！背景の写真はカーネーションの花です。

また、今月号から「豆知識掲示板」という企画が始まりました。みなさんの興味があることや、好きな本や人、食に関するちょっとした豆知識を披露していただきたいと考えています。次号からも続けていきたいと思っていますので、何を紹介するか考えておいてください！ご協力よろしくお願ひします！

今月の研究室クイズ

研究室廊下に掲示してあるポスターは何枚でしょうか？

次号の編集後記で答えを発表します。お楽しみに！



OB・OGの皆様へ【アンケートご協力をお願い】

卒業・修了後も読んでくださりありがとうございます！

OB・OGの皆様へ、アンケート回答へのご協力をお願いしたいです。氏名のみでの入力でもありがたいので、よければご協力をよろしくお願い致します！（※回答締切日：5月31日）

QRコードまたは
リンクから
飛べます！



<https://forms.office.com/r/GPtUJuZSvQ>